三岳登山マップ

三岳参り（みたけまいり）

江戸時代から肝属地方に伝わる岳参り（タケメイ）で三岳参りは肝属山地の「国見岳」、「黒尊岳」、「甫与志岳」を縦走するロマンを秘めた登山大会です。

春たけなわの４月３日（シンガサニッ）が例祭日で地元の肝付町をはじめ、遠くは大崎町、東串良町や吾平町・串良町（ともに現在は鹿屋市）などの老若男女が夜中立ちして群詣したといいます。三岳の神様に、大漁、豊作、家内安全、無病息災を祈願する山岳信仰が本旨ですが、徒歩が唯一の交通手段だった頃の、年に１回のロマンを求める社交の場でもあったようです。

国見岳（886.5m くにみだけ）

神話伝説の「海幸彦・山幸彦」物語の山幸彦（彦火火出見尊）の山陵といわれ、国見権現の名で親しまれている。尊を祀る祠があり、文化14年９月吉日の銘がある石灯籠をはじめ、古跡碑がある。明治５年６月22日、明治天皇は西郷隆盛など公武官を従えて鹿児島に御巡幸され、翌23日鶴丸城から皇祖の眠る霧島川内市の可愛（えの）山陵、内之浦の高隈山陵（国見権現）、鹿屋市の吾平山陵の三山陵を遙拝された。高屋神社には勅使を派遣して幣帛料（10円金貨）を奉納された。金貨と奉書は社宝として保存されている。

黒尊岳（908.5m くろそんだけ）

文献に国見山の南南西１里余り、ここに高さ2.5m、周囲３mほどの神石有りとある。旧高山町の郷土誌、神社の項に「御高嶽（いわなびひめの神社）がある。所在地は高山村大字新富小字三石、地区は本城方眼とあり、神石のある黒尊岳と思われる。由緒に創建不詳、人の寿命を司り、なお男女の中を守り給うという。旧内之浦町の郷土誌に「石長比売（いわながひめ）を祭る黒開岳」の項がある。「寿命縮の神」として厚く信仰され、病気などの平癒祈願をする者が多く、祠の左右には感謝の石灯籠が並んでいる。尚、黒尊岳と甫与志岳の中間にある大岩石からはアケボノツツジの群落が見渡せる。

甫与志岳（966.9m ほよしだけ）

甫与志岳は肝属山系の最高峰で一帯は南国的色彩が強い。サカキ、ヤブツバキなどの常緑広葉樹が山頂部まで密に茂り、一年中黒々と茂う。頂上は直径 15 mほどの大岩を露出したヘリポームからなり、低山ながら 360 度の大パノラマが楽しめる。眼下には太平洋の岸良浜、視界が良ければ南の洋上はるかに屋久島、種子島、北方に高隈山、霧島山等が望まれ、ハイキングに絶好の山である。山頂の岩下には玉依姫、彦火火出見尊を祀る祠がある。

ドウダンツツジ（４月中～下旬）
画像提供（季節の花300）

ツクシアセビ（４月上～下旬）
画像提供（季節の花300）

タカクマホトギス（９月上旬）
画像提供（季節の花300）

アケボノツツジ（４月上～中旬）
画像提供（吉直 毅さん）

オオスミミツバツツジ（４月中～下旬）
画像提供（吉直 毅さん）

★この三岳縦走路の整備及び清掃は、ボランティア団体であります
「高山三岳会」が中心となり、定期的に行われています。

縮尺 1/30000

1 km
2 km
3 km

国土地理院承認